

初版 20240729 改訂 20241001

開発/文書化 河野博幸 メール hkawan2@gmail.com

a) M030シリーズ 投資総合分析 の表示・起動・簡易操作ガイド

参考: 取扱説明書 (PDF) 詳細版は次のリンクに→ [取説保存場所 \(PDF\)](#)

M030 投資総合 簡易操作ガイド

下記簡易ガイドをご参照の上、日々の投資分析にご活用ください

三菱UFJのeMAXIS Slim S%P500が付属していますので機能をお試しできます

他の起動方法

1. Alt + F8
2. 表示→マクロ→マクロ表示
3. 左の投資分析ボタンを選択

試してみよう

初期設定

- ①P指標D を開き下部スライサーで指標ES-S&P500を、タイムラインで2024を選択
画面上部にある田月→年田を押すと見たい年月の日々の指標が表示されます
総計行には各列の平均値が、P件数は合計値が表示されます
- ②P指標M を開きスライサーで MとES-S&P500を、タイムラインで2024を選択
毎月の月初～月末までの情報が表示されます
スライサーのMWQで月間/週間/旬(三か月)/年間を選択します
タイムラインで複数年を指定するとその期間中の平均値が表示されます
- ③P指標D2 を開きスライサーでDとES-S&P500を選択
表示されている情報は全期間の騰落額で最も悪い上位30位です
タイムラインで期間を選択するとその間の騰落額のランクが表示されます
行ラベル▽→トップテンと進み指定した内容でトップテンが表示できます
- ④P指標M2 は 日単位でなく月旬週年末単位 の上位下位30位を見れます
- ⑤見たい数字を選択してみよう
P指標D2 の行ラベルの▽を押し、値フィルター→トップテンと進みます
一例として P終値→下位→30項目 と選択します
表示されたら、次に表示の順番をきれいにします
P終値の見出し行の下にある数値を押し、データ→並べ替え→昇順→行単位を選択
そうすると指定した期間のP終値が低い順に表示されます
並べ替えて降順を選択するとP終値の高い順に表示されます
このトップテンはどの項目でも選択して表示できますので分析にお役立てください
- ⑥数値の見方
P始値～P終値 毎日公開されている基準価額
P出来高 毎日公開されている純資産総額、eMAXISの単位:は億円
P騰落率～P騰落額 P指標D2 は前日との対比(騰落率・騰落額)
P指標M2 は前月・前週・前旬・前年末との対比
P騰落日数 投機や下落が連続した期間(日週月旬年)
P安値日/P高値日 基準価額が下回った/上回った日付け
P日数L/P日数H 基準価額が下回るまで/上回るまでの期間
P騰落率K～P騰落:騰落の連続期間の合計値(K:は継続を意味)
P騰落日数には継続した日数・月数などその期間に応じた数値が表示されます

- ①投資証券会社が提供するCSVやEXCELの指標をダウンロードします
※管理情報のD194を押すとダウンロードが開始します
- ②ダウンロードしたファイル名は指標名のES-S&P500.CSVにします

試してみよう

スライサー

タイムライン

この例は2022-2024年を選択

応用編

行ラベル▽ ←この三角を押すとフィルター画面が表示される

トップテン

←値フィルター

←これがトップテン

行ラベルの数値フィルターはトップテン以外に数値の範囲や大きい等で設定・表示できます。EXCELの標準機能なので大いに活用し役立ててください。

正

③メニューC2 証券会社提供のCSV保存場所を登録します

初めての操作

- ①下記作業の開始前には最新のES-S&P500をダウンロードしておいてください
- ②矢印の先にある**投資分析ボタン**を押してM030を開始します
- ③メニューA2 投資会社提供のCSVを指標変換を行います (CSV変換)
- ④メニューA3 で騰落日数や騰落額Kなど計算します (CSV変換)
- ⑤メニューA4 で高値安値計算を行います (CSV変換)
- ⑥メニューB7 複写でCSV変換を指標Dに複写します (CSV変換→指標D)
以降、指標Dが本番の日々の指標シートになります
- ⑦メニューA6 指標D→月/年/旬/週のYMD変換を実施します (指標D→YMD変換)
- ⑧メニューA3 で騰落日数や騰落額Kなど計算します (YMD変換)
- ⑨メニューA4 で高値安値計算を行います (YMD変換)
- ⑩メニューB7 複写でYMD変換を指標Mに複写します (YMD変換→指標M)
以降、指標Mが本番の週～年単位の指標シートになります
- ⑪メニューA9 で終了し、P指標D/P指標Mを開いてみます (P指標D/P指標M)
次に**ピボットテーブル分析の更新**を押し新指標の最新情報を反映します
※見たい指標や期間を選択して推移や騰落率・騰落額など分析します
作業終了時に**指標シートを保存**します(しない場合、全ての変更が破棄されます)

シートの種類と用途

シート名	用途や内容
指標D	本番 証券会社提供のCSVを日々の基準価額データに変換したデータ
指標M	本番 月/旬/週/年末などその期間で集計した基準価額データ
指標一時	作業 指標Dや指標Mの更新時に一時保管
CSV変換	作業 指標Dが完成するまでの作業用
YMD変換	作業 指標Mを完成するまでの作業用
WORK	作業 他の作業など一時保管用
P指標D	分析 指標Dの日々分析用ピボットテーブル
P指標M	分析 指標M(月旬週年単位)の分析用ピボットテーブル
P指標D2	分析 指標Dのベスト30や範囲を指定した抽出表示
P指標M2	分析 指標M(月/旬/週/年単位)のベスト30や範囲を指定した抽出など表示
はじめに	操作 M030シリーズの投資管理の概要説明書
管理情報	管理 指標D/指標Mにどのような指標を記録しているか管理
M020A	管理 M030シリーズの制御や7指標ファイルの統合管理
NISA	初期 証券会社の商品/ダウンロード先/変換形式を記載した情報を管理

日々の更新

構築した指標情報を更新する際の作業
下記には2024年7月の一か月分をまとめて更新する例を記載しました
月に一度～年に一度など目的に応じ更新を実施してください

①投資証券会社提供のCSVやEXCELをダウンロード

項目選択 (P騰落額や上位・下位をタブで選択)

並び替え (金額部を選択し並び替えを例-1,815)

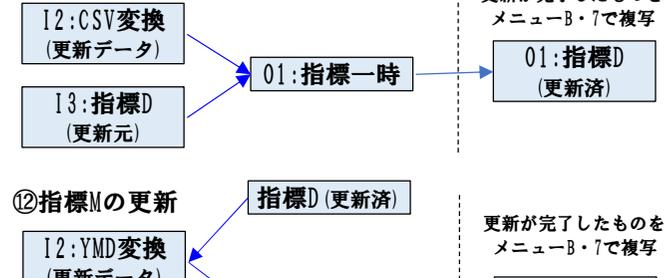
P出来高	P騰落率	P騰落額	P騰落日数
49981.45	-5.71%	-1,815	-1

初期設定

①NISA登録

日々の更新(使用シートの一覧)

⑥指標Dの更新



⑫指標Mの更新



- ②管理情報の指標内にCSV変換の対象日を設定します
この例では行17列9と10に 2024/7/1 2024/7/31 と入力します
CSV変換は指定した期間のみ抽出され使用されます
- ③メニューA2 投資会社提供のCSVを指標変換します (CSV変換)
変換先のCSV変換をクリアー→通常クリアーし実行します
- ④メニューA3 で騰落日数や連続騰落額など計算します (CSV変換)
- ⑤メニューA4 で高値安値計算を行います (CSV変換)
- ⑥メニューA5 で指標の更新を行います (指標一時)
I2:にCSV変換、I3:に指標D、O1:に指標一時を選択
指標Dの7月度の一个月分が新しいCSV変換で差し変わります
- ⑦メニューB7 複写で指標一時から指標Dに複写します (指標一時→指標D)
以降、指標Dに最新版が反映された本番の指標シートになります
- ⑧メニューA8 対象期間設定で 2024/7/1~2024/7/31と指定
※ここで指定した期間がYMD変換されます
- ⑨メニューA6 指標D→月/年/旬/週などYMD変換に作成します (指標D→YMD変換)
- ⑩メニューA3 で騰落日数や連続騰落額など計算します (YMD変換)
- ⑪メニューA4 で高値安値計算を行います (YMD変換)
- ⑫メニューA5 で指標の更新を行います (指標一時)
I2:にYMD変換、I3:に指標M、O1:に指標一時を選択
- ⑬メニューB7 複写で指標一時から指標Mに複写します (指標一時→指標M)
以降、指標Mが最新の月旬週年単位の指標シートになります
- ⑭メニューA9 で終了し、P指標DやP指標Mシートを開きます
次にピボットテーブル分析の更新を押して最新情報を反映します
見たい指標や期間を選択して推移や騰落率・騰落額など参照します

補足
指標D/指標Mを最新に保つ方法に「日々の更新」でなく毎回「初めての操作」の③~⑪を実行する方法もあります(更新よりもこの毎回再作成を推奨)

その他の機能

- ①指標Dや指標Mのレコード数や開始日・終了日を調べたい
メニューA1 指標D/指標Mを選択し指標内容の詳細を調査できます
分析結果は管理情報の93行目以降に記録されます
2メモリーあり指標D/指標Mなど両方をの詳細を一目で見れます
各指標の開始日や終了日、レコード数や開始終了の行数など調査できます
- ②特定シートをクリアしたい
メニューB2 特定シートをクリア
一時保存したCSV変換・YMD変換・指標一時・WORKのクリアに利用します
- ③シートの見出しを付加したり、列の幅を変更したい
メニューB3 シート見出し行設定
初期設定されていないシートを指標用シートとして見出し設定したい場合
またセル幅を変更する際にもこの機能で行います
セル幅や書式設定など変更可能、詳細は取扱説明書PDFを参照



②⑧指標Dの更新期間設定

5	CSV変換の対象日を設定	
指標	9	10
ES-S&P500	ADD	END
	2024/07/01	2024/07/31

管理情報 行17~26の列IJに登録
未記載の場合1900/1/2~2100/12/31が対象になります
※この例は2024年7月の一个月分が更新され新しいものに置き換わります

⑭P指標DやP指標Mへの更新反映作業

← 更新で最新情報が反映されます

P騰落額K ビボット分析が表示されない時は見出し行を押してください

NISAシートへ指標を追加登録する

eMAXIS SLIM

	A	B	C	D	E	F
1	eMAXIS Slim 国内株式 (TOPIX)					
2	基準日	基準価額	基準価額	分配金	(純資産総額 (億円))	
3	2017/2/27	9896	9896		0.01	
4	2017/2/28	9905	9905		0.04	
5	2017/3/1	10020	10020		0.08	
6	2017/3/2	10094	10094		0.11	
7	2017/3/3	10052	10052		0.18	
8	2017/3/6	10031	10031		0.2	
9	2017/3/7	10032	10032		0.26	

日付け文字例 ※SBI TOPIXの例 → 機能にD1を

	A	B	C
1	日付	基準価額	純資産総額
2	20230712	9996	37
3	20230713	10089	38
4	20230714	10075	37

例 標準幅の7を10に変更してこの操作を行う→幅を広く変更できます
 指標情報や内部データはクリアされることはありません

- ④シートのフォントの種類や大きさを変えたい
 管理情報 行12のフォント名やサイズを指定します
 その後メニューB3 シート見出し変更の実施を行います
- ⑤騰落日数や騰落率K/騰落額Kを開始日から再計算したい
 メニューB4 騰落日数を一旦クリアして
 メニューA3 で指標Dや指標Mの騰落日数等の再計算を実施
- ⑥安値日/高値日/日数L/日数Hを再計算したい
 メニューB5 一旦安値高値のクリアを行い
 メニューA4 で指標Dや指標Mの安値日高値日の再計算を実施
- ⑦指標の重複を削除したい
 誤操作で重複が発生した場合に利用します
 メニューB6 分類・重複で指定したシート内の分類や重複排除が行えます
- ⑧テスト導入した指標や使用しなくなった特定の指標を削除したい
 メニューC5 で特定シートの特定指標を削除できます
- ⑨S&P500やDOWなど例年下落する9月度の実績を調べたい
 例 ES-S&P500 の毎年9月度の情報を調べたい
 メニューC6 特定指標の抽出で行います
 I2:に指標MをO1:にWORKを選択します
 指標Mで対象とする開始日～終了日を必要なら記入します
 特定月のメッセージで 9 を入力すると9月度だけのデータが抽出されます
 更に7月や8月と指定すればO1:に継続して抽出してくれます

NISAシートにはつみたてNISA(金融庁提供227件)をはじめNISA成長投資枠やNISA非対応案件も登録できます。証券会社が基準価額をCSVやXLSXで提供している場合、次の手順でNISAシートへ追加登録を行います
 下記は三菱UFJ eMAXIS SLIM S&P500を例にした登録方法です

- ①扱いたい投資案件のCSVをダウンロードしEXCELで開き内容を確認
- ②提供されるファイルがXLSXなら→ NISA台帳 拡張子に2を
- ③最初のデータ行が3行目から開始→ NISA台帳 開始行に3を
- ④基準日が1番目の列にある時は→ NISA台帳 日付けに1を
- ⑤基準価額(再投資)が3番目の列にある→ NISA台帳 始値・高値・安値・終値に各3を
- ⑥総資産額が5番目の列にあるので→ NISA台帳 出来高に5を
- ⑦基準日がDATE型でなく文字列で記載されている場合、機能にD1・D2を入れます
 文字列で 20241231 の場合 → NISA台帳 機能にD1を
 2024年12月31日のような内容 → NISA台帳 機能にD2を
 D1/D2を指示すると内部日付けはDATE型に変換され記録されます
- ⑧確認を終えたらNISA台帳の空いてる行に情報をセットし登録にYを入れます
 列D~Eは分かり易いよう自由に記載してください
 列F~Gは投資会社HPやDownload先を登録してください

あらたな投資案件の登録方法

日付け文字例 ※PayPay N225の例 → 機能にD2を

	A	B	C	D
1	年月日	基準価額	純資産総額	分配
2	2021年3月8日	10000		1
3	2021年3月9日	10097		1
4	2021年3月10日	10092		5
5	2021年3月11日	10155		6

※ステート 米国株式の例 → 機能にD2を

	A	B	C	D
1	ファンド名:	米国株式インデックス・ファ		
2	ISIN:	JP90C000FFX4		
3				
4	基準日	基準価額	(基準価額)	純資産
5	19-Jul-2024	33066	33066	112276
6	18-Jul-2024	32981	32981	111979
7	17-Jul-2024	34026	34026	115462

NISA登録 ⑧下記は三菱UFJ eMAXIS SLIM S&P500の登録例です

No	運用会社2	ファンド名称3
236	304	
237	305	三菱UFJ eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)
238	306	

HR	DL	登録Y	指標	拡張子	開始行	日付け	始
H194	D194	Y	ES-S&P500		3	1	

始値	高値	安値	終値	出来高	機能
3	3	3	3	5	

※登録作業後にメニューC・4 で登録反映

一口メモ

騰落率と騰落率Kは何がちがう？

騰落率(列I)は前日や前月など単体対比(直前行)ですが、騰落率K(列P)は+や-が連続している場合、反転するまでの日数や月数期間中の合計騰落率になります。騰落日数には期間が表示され、騰貴(黒)は+、下落(赤)は-表示、数字はそ

列H 必須、Yを記入すればこの指標が管理情報に登録されます
 列I 必須、登録したい指標名を記載します
 列J~R 必須、上の②~⑦で調査した数値ここに記入します
 ⑨登録が終了したらメニューC4 指標の管理情報で登録を反映します
 補足 分配金型の基準価額を登録したい時は、その位置を⑤に登録できます

関連情報

M030シリーズは次のプログラムから構成されています
 M031 新投資総合 主プログラム メニューA・B
 M028 新投資初期化 主プログラム メニューC
 M029 新投資入出力 M030シリーズ共通の入出力プログラム

動作不良や操作方法などお問合せは hkawan2@gmail.com へ

それぞれ日数や月や年数となります。例えば騰落率が-5%で騰落日数が8日間だった場合、最安値の傾向なのでファンドを買うかなどの判断ができます

安値日や高値日とは

安値日(列L)はその日の終値の基準価額を下回った日が表示、日数L(列M)にはそれまでの日数が表示されます。同様に高値日(列N)や日数H(列O)には基準価額を超えた日が記載されます。下落した基準価額がどの程度で回復したか、下がるかなどの判断材料に活用できます。日数L/日数HはYMDに応じその期間が日数・月数・年数が表示されます

指標調査の実例

例1 P指標M YMD=Y 指標=ES-S&P500 日付け=2018~2024

ラベル	P終値	P騰落率	P騰落額	P騰落率K	P騰落額K
12月					
2018年	9,231	-7.10%	-705	-7.10%	-705
2019年	12,047	30.51%	2,816	108.04%	9,973
2020年	13,288	10.30%	1,241		
2021年	19,204	44.52%	5,916		
2022年	18,035	-6.09%	-1,169	-6.09%	-1,169
2023年	24,281	34.63%	6,246	62.67%	11,302
2024年	29,337	20.82%	5,056		

2018年7月に公開されたこの指標、4年に一度軽い下落はあるものの翌年には回復している。①2019年からの3年間で基準価額が約倍になる成長力が素晴らしい。②も同様

例2 P指標D YMD=D 指標=ES-S&P500 日付け=2024

行ラベル	P終値	P騰落率	P騰落額	P騰落率K	P騰落額K
7月					
2024年					
2024/7/22	31,237	-0.68%	-214	-0.68%	-214
2024/7/23	31,415	0.57%	178	0.57%	178
2024/7/24	31,191	-0.71%	-224	-4.59%	-1,441
2024/7/25	29,979	-3.89%	-1,212		
2024/7/26	29,974	-0.02%	-5		
2024/7/29	30,234	0.87%	260	1.16%	348
2024/7/30	30,322	0.29%	88		
2024/7/31	29,851	-1.55%	-471	-3.25%	-985

2024年7月度なら7月31日が最も安い基準価額

例3 P指標M2 YMD=M 指標=ES-S&P500 日付け=2018~2024

行ラベル▽→値フィルター→指定の範囲内で
 P終値 12000 13000 の間と指定すると、終値が12000~13000円の月や年の一覧が表示される

例4 P指標D2 YMD=D 指標=ES-S&P500 日付け=2018~2024 P騰落額K 下位30位

行ラベル	P始値	P高値	P安値	P終値	P出来高	P騰落率	P騰落額	P騰落日数	P日数L	P日数H	P騰落率K	P騰落額K
2020/2/25	12,171	12,171	12,171	12,171	589.23	-5.37%	-690	-5	1	112	-15.83%	-2,036
2020/3/6	10,936	10,936	10,936	10,936	624.41	-4.51%	-516	-3	1	53	-15.67%	-1,795
2022/6/10	18,895	18,895	18,895	18,895	12684.23	-2.54%	-492	-3	1	27	-9.10%	-1,764
2022/12/14	19,219	19,219	19,219	19,219	16671.8	-0.98%	-190	-6	1	35	-8.41%	-1,632
2022/4/21	19,999	19,999	19,999	19,999	12233.12	-0.95%	-192	-5	1	77	-7.70%	-1,555
2024/7/24	31,191	31,191	31,191	31,191	51953.83	-0.71%	-224	-3	1		-4.59%	-1,441
2018/12/17	9,854	9,854	9,854	9,854	83.64	-2.02%	-203	-6	1	29	-14.04%	-1,412
2020/3/12	9,762	9,762	9,762	9,762	587.29	-5.10%	-525	-2	1	2	-13.63%	-1,402
2023/3/8	19,385	19,385	19,385	19,385	18593.01	-0.65%	-126	-5	1	17	-6.77%	-1,321

これまでES-S&P500は幾度も大幅な上昇や下落を経験。連日の合計下落幅が最も大きかったのは①の新型コロナによる経済活動の不安懸念。②はFRBの利下げ期待の後退による影響③は米国雇用統計の悪化から。125年も続くS&P500の長い歴史にはもっと大きい下落率を何度も経験している

15万円をつみたてNISAで毎月3万円x5カ月つみたてを運用する例。①は終値の基準価額が毎月3%上昇中の時、②は3%下落中の時。つみたてではなく15万円を一括購入する方法では、③は高値の時、④は下落した時、⑤は初値の時に購入した例。年末に終値が13,500になったら、各騰落率と収益金額は？
 →結果は④②⑤①③の順によい

①終値	口数	②終値	口数
10,000	30,000	10,000	30,000
10,300	29,126	9,700	30,928
10,609	28,278	9,409	31,884
10,927	27,454	9,127	32,870
11,255	26,655	8,853	33,887
	141,513		159,570
③終値	口数	④終値	口数
11,255	133,274	8,853	169,434

つみたて投資は終値が下落中はある程度効果があるものの、上昇時は効果が低い。なんでもそうだけど、投資信託も安い時に買って、高い時に売る。基本ルールはこの世界でも同じでした

年末に終値(基準価額)が13,500円になったら
 ① 14.15x13,500=191,025円 +27% 41,025円
 ② 15.96x13,500=215,460円 +44% 65,460円
 ③ 13.32x13,500=179,820円 +20% 29,820円
 ④ 16.94x13,500=228,690円 +52% 78,690円
 ⑤ 15.00x13,500=202,500円 +35% 52,500円